

## 実践報告資料

研究テーマ『子どもの学ぶ権利を守るための適切な教育環境づくり』

～楽しい仲間、楽しい授業、楽しい学校～

研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名（三田市立武庫小学校）

<p><b>ア 人権教育としてのねらい</b> 積極的に人と関わる活動を通して、自尊感情を育むとともに自他理解を向上させ、進んで共感し合う集団を育てる。そして、誰もが差別をしない生き方を求め、自分らしくより良く生きようとする心情を育む。</p>				
<p><b>イ 研究の概要</b> 子どもの学ぶ権利や学力保障に向けた効果的な授業展開や教育環境の在り方を検討するとともに、人とのつながりを豊かにする学級・学校経営の在り方を全職員で推進する。</p>				
領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	3年担任 推進教員	4年担任 推進教員	全教職員	6年担任 推進教員
実施日	6月29日	10月6日	4月～3月(通年)	1月13日
取組名	一万をこえる数	何がおかしいの	ともだちいっぱい 武庫ピース	6年2組の幸福論 バックキャストイング
目標	人が話している時には、相手が何を伝えたいのか考えながら聞くことができる。 友だちの意見を聞くことで、自分の考えがより良いものとなると気づき、取り入れる。	いじめを前に傍観者でいることのおかしさに気づき、いじめを許さず行動していこうとする態度を養う。	一人ひとりの違いを認め互いにたたえ合う経験を通して、個性を大切にする心や相手を思いやる心の育成を図る。	自分たちの未来の姿を思い浮かべ、クラスをより良くする方法を具体的に考え、誰もが主体的に取り組もうとする。
資料名	「一万をこえる数」 (啓林館)	「わたしのせいじゃない」	/	「町の幸福論」 (東京書籍) 「三田の偉人・史跡」
指導内容や指導方法の工夫等	授業のユニバーサルデザイン化を図る。授業内容の視覚化、焦点化、共有化がなされるよう、「解決計画か(課題)き(既習)く(比べる)け(形式)こ(根拠)」を基に授業計画を立てる。既習事項「25×10」の考え方を確認し、その応用問題としての「25×100 や×1000」について考え、言語化することで、位の動かし方の概念を構築させる。	教材より、いじめの構造(加害者、被害者、観衆、傍観者)について気づき、学級内(いじめの構造)における一人ひとりの立場と心情について十分にふり返らせる。授業内では、一傍観者としての自己の言動を考え、状況打破のためには、「観衆」「傍観者」が「被害者」の心情に寄り添い、「積極的仲裁者」となることが必須であることに気付かせ、主体的行動を推進していく。	年間6回の代表委員会を開き、「ともだちいっぱい武庫ピース」をテーマにイベントを組む。 ①1年生を迎える会 ②生活集会1 ③ともだちいっぱい1 ④生活集会2 ⑤ともだちいっぱい2 ⑥6年生を送る会 コロナ禍だからこそできることを模索。より良い生活習慣を求め各委員会が動画で呼びかけたり、リモートで異学年遊びを実施したりすることでつながりを強める。	国語科では、「町の幸福論」の説明文教材を読み取る学習を進める。一方、総合的な学習の時間では、三田市の史跡をめぐり、三田の歴史に名を刻んだ人々の思いにふれる。まとめとして、自分史を作成する。自分史の作成に向け、まず自分たちのクラスのつながりについて考えることを通して、課題を捉え、そして、未来の姿を想像し、今自分がどうすべきかを考えるようにする。

実施日：6月29日（6校時）	
領 域：教科（算数科）	
取組名：一万をこえる数	
対 象：3年生	実施場所：3年3組教室
ア ねらい 一万をこえる数について、既習の数の表し方に基づいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進法位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 ユニバーサルデザイン化（UD化）を図った授業を展開する。 （1）視覚化 ・ 1時間の流れ、「課題をつかむ・解決する（考える・深める）・確かめる」を基に学習計画を提示する。 ・ 考え方を図でノートやホワイトボードに掲示する。 ・ モニターに問題文やそれぞれの考え方（図や式）を掲示し、全体で共有する。 （2）焦点化 ・ 「一、十、百、千」4つの繰り返し。 ・ $\times 10$ や $\div 10$ をすると実数の下の位に「0」が増えたり減ったりし、位の上がり（10倍）下がり（ $\div 10$ ）がある。「位の階段」 （3）共有化 ・ $25 \times 100$ や $25 \times 1000$ の計算における共通項を友だちの意見から見出し、図や式で考え方をまとめ、言語化する。「 $25 \times 10$ 」では、「位が一つ上がり、一の位には「0」が入る」ということを確認し、「 $25 \times 100$ 」は「 $25 \times 10 \times 10$ 」、「 $25 \times 1000$ 」は「 $25 \times 10 \times 10 \times 10$ 」となることをつかむ。	
ウ 連携先：推進教員、指導補助員	
エ 連携にむけての取組 ・ 指導補助員と連携し、事前に学習への困り感のある児童の実態を把握しておく。 ・ 個別支援を要する児童に対する手立てを準備する。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ 事前に推進委員会で指導案の検討を行う。 ・ 事後に推進委員会での授業研究を行い、授業や児童の様子について検討する。 ・ 児童の実態について、校内支援委員会と推進委員会を活用し、校内で共有する。	
カ 評価の方法 ・ 行動観察 ・ ノート（ふり返り）	
キ 成果 ・ 視覚化、焦点化、共有化を図る授業のUD化により、児童個々の課題を分析した上で授業に臨めば、児童らの学習へ向かう主体性が発表となって現れることが分かった。 ・ 児童が自分の意見を考える際、ギャラリーウォークを取り入れたことで、友だちの考えのすばらしさに気付いたり、自分の意見と比べ、それぞれの相違点に気付いたりすることで学習理解が深められた。 ・ 本時の課題と既習事項を比較する中で、十進法位取りの概念が反復され、本時の応用的内容に発展していけることが分かった。	
ク 課題 ・ 授業のUD化を全教科・領域に発展させることで、児童に学習への取組を習慣化させるとともに、学習の質を向上させる必要がある。 ・ 日ごろの授業から、児童個々の学力及び生活実態を十分に把握するため観察する必要がある。	

## 第3学年3組 算数科 学習指導案

2022年6月29日(水)第6校時

指導者 3年3組担任

### 1. 単元名「一万をこえる数」

### 2. 単元の目標

一万をこえる数について、既習の数の表し方に基づいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進法位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

### 3. 人権の目標

#### 人間関係の活性化3-(2)-ア

- ・ 人が話しているときには、相手が何を伝えたいのか考えながら聞くことができる。
- ・ 友だちの意見を聞くことで、自分の考えがより良いものとなると気づき、取り入れる。

### 4. 単元設定の理由

#### ① 自分の考えを伝えようとする児童をめざして

本学級では、学級目標「みんなピカピカ心優しい3年3組」をめざして、誰か困っている人がいたら率先して助けられる人になろうと心がけている児童が多い。授業中でも、悩んでいる児童がいればみんなで解決できるよう考え方を伝えようとしている児童も少しずつ現れてきた。しかし、算数に自信がなく、「答えがあっているか分からないから不安」「自信がないから発表したくない」という児童もまだまだ多い。途中まででもいいので、自分の考えを伝えたり、友だちの意見を聞き、受け止めたりすることで、意見交換を楽しむ気持ちを育てたい。

#### ② 既習内容を生かして考え、一般化する

第2学年では、数については、百から千、そして一万までに範囲を拡張し、十進法位取り記数法による数の表し方、数の構成、系列、順序、大小、それぞれの位の大きさの関係などについて学習してきている。当然、位が1つ上がるときの数の構成、数詞の巧みな繰り返しについてはほぼ気付いている。第3学年の本単元では、一万の位を基にして、第2学年までに学んだ千までの位全体がもう一度繰り返される。一万の位のすぐ上の位が一億でなく、十万、百万、千万と繰り返す。10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ の大きさを考える時、100倍は、「 $10 \times 10$ 」。1000倍は、「 $10 \times 10 \times 10$ 」ととらえ、位を一つずつ上げることで、一万を超える数も10倍(10個分集める)すれば位が一つ上がり、一の位に「0」を付ければいいことを理解させる。これらの活動は、第4学年で一億をも基にして、十億、百億、千億と繰り返し、さらに一兆を基にして十兆、百兆、千兆と繰り返すという仕組みに比較的容易に気付くことができるであろう。このように、十進数は数詞が少なく済むように工夫されている。このことをしっかりと理解させるために、本単元は重要な役割を果たしている。また、10倍( $\times 10$ )の計算はこの後に出てくる2桁をかけるかけ算の筆算「 $\square \times \text{何十}$ 」の素地になるので、具体的な式から一般化させて次へつなげていきたい。

#### ③ 根拠をもって、自分の言葉で説明するために

第2学年までは10個集めた数(10個分)がいくらかを考えていたが、本時からは「10倍」を使う。本時は、既習事項を基に考え、10倍すると位が一つ上がり、一の位に「0」が付くということに気付かせる。P68、1には、㊦と㊧の2つ問いがある。㊦「25円のえんぴつ100本分」は全体で考える。自力解決、ペアトーク、グループ発表の手順で図や式で考え方を説明することを確認する。その際、「10倍すると位が一つ上がる」という根拠を基に、「100倍」「1000倍」について説明させていきたい。

### 5. 研究主題との関連

#### (1) 視覚化

- ・ 1時間の流れ、「つかむ・解決する(考える・深める)・確かめる」を基に学習計画を提示する。
- ・ 考え方を図で示し掲示する。
- ・ モニターに問題文を掲示する。
- ・ モニターに発表するノートの写真をエアドロップで掲示し、説明する。



			組みを基に千万までの数の仕組みを考える。	生を合わせた人数である13198886という数から、千万の位までの数の構成について考える。	理解し、数字で書くことができる。《ノート》
	5	64	・ 第2学年時の学習を基に、1億までの数について大小比較できる。	・ 土曜日と日曜日のどちらの入場者が多いかを考え、万の位までの大小比較の仕方を考える。	知・技万の位までの大小比較の仕方を考えることができる。
	6	65	・ 万の位までの数について、数直線上に数を表したり、数直線上の数をよんだりできる。	・ 数直線上の点をよんだり、数直線上に数を表したりすることで、数直線の性質を知る。	知・技数直線上に数を表したり、数直線上の数をよんだりすることができる。《ノート》
	7	66	・ 数の相対的な大きさの見方を基に、万の位までの数の加法・減法ができる。	・ $14000 \pm 8000$ の計算の仕方を1000を基にして考え、1000を単位とした計算の仕方を理解する。 $14000 \pm 8000 = 6000$	知・技千や一万を単位にして、加法・減法ができる。
2 10倍した数、10でわった数	8	67	・ 数を10倍することについて理解する。	・ 鉛筆1本の値段が20円、5円の時の10本の値段について考え、どんな数でも10倍すると位が1つ上がることを理解する。	思・判・表 $25 \times 10$ の計算の仕方を考えることができる。《ノート・発言》
	9	68~69	・ 数を100倍(10の10倍)、1000倍(100の10倍)することについて理解する。	・ 鉛筆1本の値段が25円の時の100本、1000本の値段について考えることを通して、100倍、1000倍の計算の仕方を理解する。	知・技25を100倍、1000倍することについて理解している。 思・判・表まとめの考え方を使得、100の100倍が何になるかを考えることができる。
	10	70~71	・ 数を10でわることについて理解する。	・ あめ10個が50円、250円の時のあめ1個の値段について考え、数を10でわる計算の仕方を理解する。	知・技50を10でわることについて、理解している。 《ノート・発言》 思・判・表 $250 \div 10$ の計算の仕方を考えることができる。《ノート・発言》
練習	11	72	練習		
学びのまとめ	12	73	学習内容の自己評価		

### 8. 本学級における個別支援を要する児童に対する手立て

児童名	気になること	考えられる原因	手立て
A	全体指示が入りにくい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習内容に興味がない。</li> <li>・ 説明することに自信がない。</li> <li>・ 自分の世界に入ると夢中になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体指示の後に指示の内容が分かったか個別に確かめる。</li> <li>・ 班活動を入れることで、自分の意見に自信がなくても友だちの話を聞き理解しようとする姿を評価する。</li> </ul>
B	算数の既習事項が定着しにくい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期記憶が弱い。</li> <li>・ 前年度までの学習で理解しきれていないところがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入部分で本時に関係のある既習事項を全体で復習する。</li> <li>・ 単元で学んできたことを教室掲示しておく。</li> </ul>
C	発表しづらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容に自信がない。</li> <li>・ 恥ずかしさがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班での活動を通して、話す内容を事前にみんなと相談していることで安心感をもたせる。</li> </ul>

## 9. 本時の目標

### 【算数科】

- ・ 25 を 100 倍、1000 倍することについての理解している。(知・技)
- ・ 10 倍、100 倍、1000 倍すると「0」の数だけ位が上がることを使って、100 の 100 倍が何になるかを考えることができる。(思・判・表)
- ・ 10 倍の学習を基に、数を 100 倍、1000 倍することについて理解する。(思・判・表)

### 【人権教育】

- ・ 自分の意見を全体の中で間違いを恐れず堂々と伝えることができる。
- ・ 友だちの意見を聞くことで、自分の考えをより良くする。

## 10. 本時の展開

	学習活動	教師の支援と評価
つかむ 見通す	<p>1、前時に学習した 10 倍した数、について復習する。</p> <p>問: 1 本 25 円のえんぴつがあります。10 本の値段はいくらですか。</p> <p>式) <math>25 \times 10 =</math>  <math>20 \times 10 + 5 \times 10 = 200 + 50 = 250</math>  <math>25 \times 10 = 250</math></p> <p>2、めあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時のまとめにある「どんな数でも 10 倍すると、位が 1 つ上がり、右はしに 0 を 1 こつけた数になります。」の意味について考えさせる。</li> <li>・ 前時の 10 倍した数の復習の時に、10 円玉や 5 円玉の模型を用意し、この後の考え方を自力解決する際に、模写できるように板書しておく。</li> <li>・ 『〇倍 = <math>\times</math>〇、〇個分』ということを全体で確認する。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">25 円を 10 倍、100 倍、1000 倍した数(の性質)について説明しよう。</div>	
解決する	<p>3、25 円の鉛筆が 100 本で何円か全体で求め方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>25 \times 10 = 250</math></li> <li>・ <math>250 \times 10 = 2500</math></li> </ul> <p>4、100 本で何円かの考え方を使い、鉛筆 1000 本で何円か値段の求め方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>25 \times 100 = 2500</math></li> <li>・ <math>2500 \times 10 = 25000</math></li> <li>・ <math>25 \times 10 \times 10 \times 10</math></li> </ul> <p>5、班で考え方を交流し、1 つの考え方へまとめてホワイトボードへ書き込み発表する。 各班が発表している時に良い考えがあれば、自分のノートへ「みんなの考え」としてメモする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>5 \times 10 = 50</math> や <math>1 \times 10 = 10</math> をもとに <math>\times 10</math> (10 倍) すると位が一つ上がるということを、十進位取り記数法で説明させる。</li> <li>・ 100 倍がとらえにくい児童には、授業の初めに復習した 10 倍の図を基に、まずは 25 円の 10 倍から考えさせる。</li> <li>・ 100 倍とは、「10 倍の 10 倍」(10 の 10 個分) ということを思い出させ、「<math>25 \times 10 \times 10</math>」の考えを導く。</li> <li>・ 式は全体で確認し、考え方を重点的にノートに書かせる。</li> <li>・ 苦手な児童へは位取り表も用意しておく。</li> <li>・ 自分の考えを書くのが難しい児童には、100 倍の板書を参考にし、位取り表か図かを選んで途中まででもいいと声をかける。</li> </ul> <p>〔評〕 10 倍の考え方を基に 100 倍、1000 倍について自分の考えを表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班で話し合う時には、相槌を打ったり質問したりするよう声をかけておくことで話し手が話しやすい環境を作る。</li> <li>・ ノートに書けなかった児童も、友だちの意見を聞いて、説明できるところは説明させる。</li> <li>・ 班で発表する時には、一人で発表するのではなく、協力して発表できるよう、ホワイトボードを指す人がいたり交代で説明したりするほうが良いと声をかけておく。</li> </ul> <p>〔評〕 1000 倍について説明することができる。</p>
確かめる	<p>6、練習問題を解く。</p> <p>7、ふり返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題を解くのが難しい児童もいるので、3 の①～④まで解けたら〇、4 やもっと練習まで解けたら花丸というように、それぞれ目標をもてるよう設定する。</li> </ul> <p>〔評〕 100 倍や 1000 倍の計算ができる。</p>

実施日：10月6日（5校時）	
領 域：特別の教科 道徳	
取組名：何がおかしいの 【A-(1)善悪の判断】 教材名：「わたしのせいじゃない」	
対 象：4年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめを前に傍観者でいることのおかしさに気付き、いじめを許さず行動していこうとする態度を養う。</li> </ul>	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <p>第1次 教材場面を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被害者を取り巻く14人の言動について把握し、整理する。</li> <li>それぞれの言動のおかしさに気付く。（いじめの構造図に当てはめていく）</li> </ul> <p>第2次 被害者を笑顔にするためにできることを考え交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「それ、おかしい。」と声をあげることが難しくても、自分にできる最善の方法を取ることの大切さに気付く。</li> <li>身の回りの出来事を想起し、主体的に捉えることができる。</li> <li>「いじめは絶対にいけないこと。」と理解し、「おかしさ」を感じる場面に出会った時、積極的に仲裁者になろうとする意欲を高める。</li> </ul>	
ウ 連携先：他学級、他学年、家庭	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>動画などで授業記録をまとめ、学年で児童の思いを共有する。</li> <li>学級や学年通信で児童の思いを紹介し、保護者へ啓発する。</li> <li>人権だより「心ぼかぼか」で人権参観日のふり返りを掲載する。</li> <li>学年の重点教材として指導案、成果と課題をまとめる。</li> <li>学年、学級だよりで、学習内容や児童の様子、授業後の行動の変化などについて知らせ、家庭においても児童の自尊感情伸長に意識を向け、共有する。</li> <li>来年度への引継ぎ資料をまとめ、カリキュラムの系統性を高める。</li> </ul>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> <li>各担任などの取組（特に気になる児童の様子や関わり方の留意点など）を学校全体で共有できるよう、月に一度全体会を開き、確認する。</li> <li>気になる児童の多くが衝動的に自他を傷つける。その行動に対して個人的な指導と全体への働きかけを並行して行う。全体へは、個の尊厳と集団としての包容力を培う。</li> <li>校内の「人権の木」を活用し、クラスの友だちの優しさを見つけ、「人権の実」に記入し貼り付け、他学年に広げる。</li> </ul>	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート ・ 感想</li> </ul>	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの構造に気付き、学級内や人間関係の中での自分の役割について考え、傍観者や観衆ではなく、積極的仲裁者になろうとする意欲をもつことができた。</li> <li>どんな理由があってもいじめはいけないことであるという意識を強めることができた。</li> <li>日常の中での他者との関わり方について、自分も他者も大切にす言動が増えた。</li> </ul>	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>自己中心的な発想や言動で仲間と協働できない児童へのより良い関わり方について考える必要がある。</li> <li>個々の自尊感情の伸長と集団力の向上を図る取組を進める必要がある。</li> <li>人権教育における意識の変容の系統性を重視し、継続的取組の徹底を図る必要がある。</li> </ul>	

## 第4学年 人権参観指導案

2022年10月6日(木)第5校時  
指導者：4年担任

### 1、本時の展開

1. 主題・内容項目 何がおかしいの 【 A-(1) 善悪の判断 】
2. 資料名 「わたしのせいじゃない」
3. 本時の学習

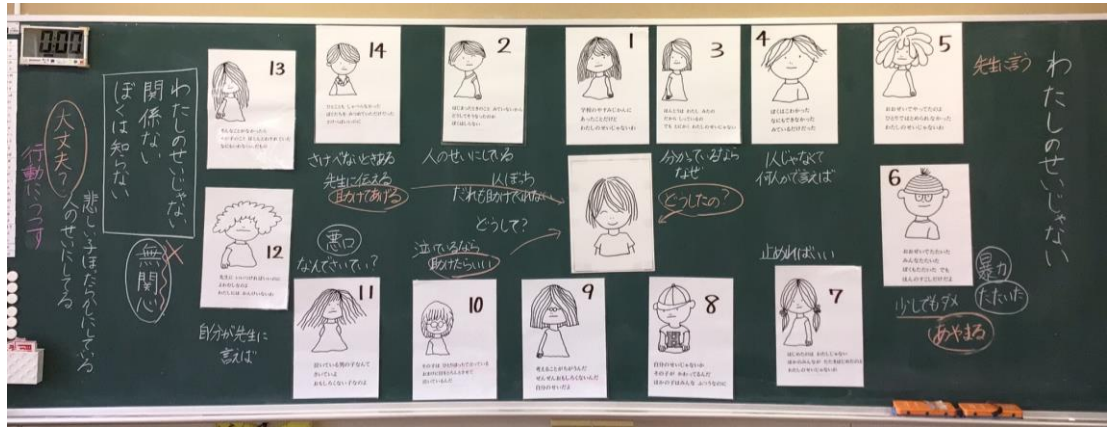
《目標》いじめを前に傍観者でいることのおかしさに気づき、いじめを許さず行動していこうとする態度を養う。

#### 《展開》

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1. 「わたしのせいじゃない」を読み、男の子の置かれた状況を把握する。</p> <p>2. みんなの言葉を聞いて思ったことを交流し、男の子を悲しませているのは何か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無関心</li> <li>・ 見ているだけ</li> <li>・ みんなのせい</li> <li>・ 本人のせい</li> </ul> <p>3. いじめをなくすために、自分に何ができるかを考える。</p> <p>4. 本時のふり返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおぜいにたたかれた。</li> <li>・ 泣いている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みんなの言葉を聞いて、どう思いますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょっとでも叩いたらだめだと思う。</li> <li>・ 「わたしのせいじゃない」と言っているのはいけない。</li> <li>・ 自分もしているのに、周りのせいにしてるのは、おかしい。</li> <li>・ 泣いてるのに、自分のせいと言われて、かわいそう。</li> <li>・ 見て見ぬふりは、だめだと思う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>この子を笑顔にするためにはどうしたらよいでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悪口を言わない。</li> <li>・ たたかない。</li> <li>・ 先生に見たことを伝える。</li> <li>・ 声をかける。</li> <li>・ 普段から友だちが困っていれば、自分は無関係なと思わないで声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの言葉のおかしさに迫っていく。</li> <li>・ 泣いている男の子の気持ちを考え、叩かれたことだけが、男の子を悲しませていることではないことに気付かせる。</li> <li>・ 「おかしい。」と声をあげることが難しくても、自分にできる最善の方法をとることの大切さを確認する。</li> <li>・ 見て見ぬふりする傍観や無関心が、いじめを助長していることを押さえて考えさせる。</li> <li>・ 子どもたちからの考えが出た後、最後に泣いている子のカードを笑顔に変える。</li> </ul>



## 2、板書



## 3、児童の感想

- ・ 被害者がいたら、先生に言うか、大丈夫?と言おうと思いました。見ている人も、「わたしのせいじゃない。」と言っている人も、助けなかったら加害者と一緒なんだと思いました。
- ・ 加害者も、もちろん悪いけど、それを放っておく人も悪いと思いました。自分だったら自分から言う勇気はないから、先生や家族に相談します。
- ・ 見ているのに、何もしないのはひどいなと思いました。全員が仲裁者のクラスになりたいです。傍観者も、助けたり、先生に言ったりすればよいのと思いました。傍観者も、観衆もいじめなのだと思いました。



## 4、成果と課題

### ○成果

- ・ 子どもたちは、口々に「おかしいやん」と言いながら活発に意見を出していた。ふり返りでは、「無関心が一番だめなことがわかりました」や、「これから、泣いている子がいたら声をかけていきたい」「いじめは、絶対いけない、傍観者になってもいけない」と書いている児童が多かった。
- ・ 最後に、「いじめの構造図」をテレビに映すことで、加害者だけではなく、傍観者や観衆すべてがいじめを生み出しているということが理解でき、仲裁者になろうという思いにつながった。
- ・ 男の子への周りの行いから、意地悪を直接している友だちのおかしさと見て見ぬふりをしている友だちのおかしさがあると、考えることができた。
- ・ もしも自分が同じような場面に出会ったら、止めたいや大人に伝えたいという考えを、ふり返りに書いていた。
- ・ どんな理由があってもいじめはいけないことであるとふり返りに書いていた。

### ○課題

- ・ 実際の生活にどれだけ生かしているのかと問われると難しいところがある。友だちに心無い一言を放った子に対して、「それは言い過ぎである」ということを言えない児童も多にいる。

### 懇談会

- ・ 学級懇談会の参加者が少なかった。
- ・ 参加いただいたのは少人数の保護者であるが、学校で決められた内容については順番に伝え、分かりにくそうなことに関してはテレビに図を写すなどして伝えた。少ないことで逆に保護者同士、また、そこに教員も交えて、日ごろの子育てに関する悩みや学校での子どもたちの様子についてじっくり話をすることができた。懇談に来られていた保護者はアンケートでも、有意義な時間であったと回答していた。

実施日：12月1日（3校時）	
領 域：特別活動	
取組名：「ともだちいっぱい武庫ピース」（児童会テーマ）	
対 象：全校生	実施場所：教室および各学年フロア
ア ねらい 人それぞれ得意なこと、苦手なことがあって当たり前であることを理解し、人とつながり、互いに認め合う経験を通して、個性を大切にしたい心や相手を思いやる心の育成を図る。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 第1次（5月） ・ 児童会テーマを決定する。各学級にテーマ設定の趣旨を投げかけ、募集した後に代表委員会で話し合い、決定する。募集の条件として、武庫小学校のみんながつながれるものであること、認め合える仲間を作るものであることなどを提示する。 第2次（6月） ・ 決定したテーマに基づき、それぞれの委員会が分担してグッズ作成や周知方法について考え、全校に広めていく。 ・ 異学年交流会「武庫フェス」の復活をする。 第3次（通年） ・ 学校行事や児童会行事等において、テーマを意識した活動に取り組み、学級活動などの充実を図る。	
ウ 連携先：他学級、他学年、家庭	
エ 連携にむけての取組 ・ 日常の中の児童の頑張りや良い面を見つけ、連絡帳や電話、学校HPなどで保護者へ知らせる。 ・ 各学級の朝の会や終わりの会において、仲間の良さを確かめる時間を設ける。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ 各担任などの取組（特に気になる児童の様子や関わり方の留意点など）を学校全体で共有できるよう、月に一度、全体会を開いて確認する。 ・ 校内に「人権の木」を掲示し、学校生活の中での「よさ」を見つけ「人権の実」に記入し、貼り付ける。人権だより「心ぽかぽか」に児童が書いた「人権の実」を紹介し、他学級や他学年とのつながりを視覚的に捉えさせる。必要に応じて各学級でふり返るとともに、記述内容に個性を認め合うものが含まれるよう、折に触れ、児童会テーマである「ともだちいっぱい武庫ピース」を意識させる。 ・ バッジ作成や啓発ポスター、行事の際のあいさつなど、それぞれの学年や委員会に具体的に活動をさせることにより、児童の意識を高める。	
カ 評価の方法：行事ごとのふり返りや「人権の実」の記述内容	
キ 成果 ・ 行事を通じて児童会テーマを意識することにより、人それぞれ個性があって良いこと、それを認めていくことが大切であることの理解が深まりを見せた。 ・ 校内の掲示物（ポスターや新聞）によって、児童会テーマを意識する環境が整った。 ・ 高学年になると、個々の得意なこと、不得意なことを理解しながら、日々の出来事を大らかに受け止め、受容する場面が増えた。	
ク 課題 ・ 個性を強調するあまり、「あの子は～だから」といった固定観念化につながらないように、物の見方には多様性があることを指導していきたい。 ・ ふり返り活動がまだ十分でない。「人権の実」のフィードバックとともに、ふり返りの際に「ともだちいっぱい武庫ピース」を意識することばかけを増やしていく必要がある。	

## ともだちいっぱい 武庫ピース

三田市立武庫小学校

### 1. はじめに

新型コロナウイルスによる感染拡大は、私たちの教育現場にとって非常に大きな出来事であった。3～4年生の時に全国一斉休校を経験した現在の6年生は最高学年になった自覚が今まで以上に薄いように感じられた。学校行事、特に子どもたちが企画運営を行う児童会行事が実施しにくい状況の中で、どのように工夫し、子どもたちが満足感を得られる企画にできるかが大切になってくると考えられる。もちろん行事だけが子どもたちの育ちや学びを保障するわけではないが、新学習指導要領で示されている「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」において、行事を通して学ぶことや育まれることが大きなウェイトを占めていることは否めない。

これらのことから感染症対策を講じながら、できるだけ体験的な活動を行っていこうと、様々な取組をしてきた。昨年度の6年生を送る会では、実施するべきか、実施するならどのような感染症対策を講じるべきかと何度も協議を重ね、6年生と5年生の必要最低限の人数だけを体育館に集め、実施することになった。各学年の出し物についてはあらかじめ動画で撮影しておき、卒業お祝いのプレゼントを渡す時には作成している時の様子を映すなど工夫しながら実施することができた。

with コロナ時代の教育の在り方について考えながら試行錯誤を重ね、ようやくできる事とできない事が分かりかけてきた。感染対策と創造的な取組を両立させるのはとても困難ではあるが、子どもたちと共にアイデアを出し合うことで新たな可能性も見えてきている。本校においては、この転換期の中で特別活動の重要性を再確認しながら取組を進めている。

### 2. 代表委員会

代表委員会は各クラスの代表（1～3年は教師）と委員会の代表が協議・決定する機関である。今までは児童会室で行っていたが、学年をまたいだ子どもたちが集まることになるので、お互いに距離をとり、密を避け体育館にて行うことにした。

体育館では掲示物の大きさについて考えなければならなかった。今まで使っていたものでは見えないものがあるので、広い場所でも全員が見えるように決定した事項などについては事前に用意していた短冊を用いて掲示した。

第1回代表委員会では、事前に児童会テーマについて募集を行い決定したテーマ「ともだちいっぱい 武庫ピース」について、それを実現するためにどんな取組を行うのかを協議した。ポスターを作る、新聞でお知らせするなどの意見について委員会で役割分担を行い実施することになった。

また、1年生を迎える会についても話し合った。昨年度は新たな取組として放送による集会を行ったので、どのように開催するかが論点になった。協議の結果、昨年同様に放送によるクイズ大会を実施し、2～6年生の各クラスが考えたクイズを1年生の代表数名だけ放送室にて解答することになった。そして、お互いに顔見せできる方法はないかと考え、1年生が中庭に集まり各学年の廊下から拍手で歓迎をする事が決まった。

当日は軽快なBGMとともに放送が始まり、1年生が一生懸命クイズに答えるたびに各クラスから拍手や歓声が上がっていた。

第2回代表委員会では、以前行っていた全校児童集会の一つである「武庫フェス」を復活させたいとの思いから、まずは1学期に児童集会を開いてみて、ふり返りをする事で不十分だった点を改善していこうと「セタフェス」を企画した。司会進行は放送で行い、各委員会で役割分担した短冊の掲示物やクラスの宝探し（良いところ見つけ）を通して、クラスとしても学校全体としてもつながりを深められる良い集会を行うことができた。この集会でのふり返りを踏まえ、2学期には「武庫フェス」を復活させようと子どもたちと試行錯誤を行っている。



### 3. 学級会

本校では学級会を行う際に司会のマニュアルを使用することを励行している。各クラスに学級会グッズとして司会マニュアル、討議用磁石、マーカーなどを備えており、同じ道具を使うことで段取りよく話合いの準備を行えるようにしている。また、係活動についても三田市教育研究グループ特活部会作成の掲示物を基にして、より創造的に活動を行うよう指導している。係活動で取り組んだ内容や培った想像力を活用し、話合い活動へとつなげている。

本学級は自分を表現することに苦手意識をもっている児童が多い。授業中に発表することはもちろんのこと、班などの小グループで話合いをする時ですら自分の意見を述べようとしない。教師が指名することにより意見を発表することができた。また、友だちの意見を聞いたりそれを聞いて思考したりしながら授業に参加できた。発表が苦手かどうか問うてみたところ、できるだけめだちたくない、表現することが恥ずかしいなどの意見が出た。総合的な学習の時間として取り組んだ平和を訴える劇など、少しずつ表現することの楽しさを実感してきた子どもたちが、今まで行ったことのない集会活動を試みようとする取り組みが「ハロウィンファッションショーを成功させよう」である。

#### ① 議題名 「ハロウィンファッションショーを成功させよう」

#### ② 指導にあたって

前回の話合い活動において時間内に終わらせることができず、休み時間などを使って話合いを継続しなければならなくなった。最高学年であることから委員会活動などで仕事を担当しており、休み時間や放課後など事前に司会グループによる打合せをあまり行えなかったことが原因であった。そこで、今回の話合いにおいては事前打合せの計画を立てることで、見通しをもって話合い活動に臨めるように指導した。また、話合いの内容については、賛成意見を積み重ねることで合意形成していくと意欲的に話合いを進めることができることや、適度な反対意見は必要だがそれを解決していくために話し合う方法もあることをクラス全体に指導した。

#### ③ 話合いや実践活動の様子

事前に打合せを何度も行ったことで話合いについてはスムーズに進められた。発表される意見についても反対意見は出るものの、おおむね賛成意見による討議で話し合われた。話合いの結果、ランウェイを作成する、チームでテーマを決めて仮装する、みんなの投票で得点を付ける、ポーズをとった時に説明を加える等が決まった。

実践活動の様子については、それぞれ違ったテーマを基に仮装を行い、BGMに合わせて颯爽とランウェイを歩く様子が見られた。また、見られることにより、自己表現する力を付けていったように感じた。



実施日：1月13日（3校時）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：6年2組の幸福論	
対 象：6年生	実施場所：教室
ア ねらい 目的に応じて、話の構成を工夫し、場に応じて適切な話し方で伝えることができる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 第1次 「町の幸福論(国語科：東書)」を読み、より良くしたい物事に対して、どのようにアプローチしていけばよいのか意見を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>本文を読み、より良くしたい物事に対するアプローチの仕方について考える。その際、バックキャスティング「①現状の課題把握。②理想とする未来の姿を想像する。③具体的に取り組む内容をもつ。」の有効性に気づき、自分たちのクラスに当てはめて考える意欲をもたせる。</li> <li>三田市の偉人や史跡をめぐることで、人々がより良い自己、地域、社会をめざし、生き抜いた足跡を知ること、自分自身の生き方を見つめさせる。</li> </ul> 第2次 「6-2の幸福論」について主体的に考え、交流する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>現状の課題を交流する。</li> <li>卒業の日をどのような姿(思い)で迎えたいのかについて交流する。</li> <li>主体的な取組について交流し、具体的な取組を決定する。</li> </ul>	
ウ 連携先：他学級、家庭	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>日常の中の児童の頑張りや良い面を見つけ、連絡帳や電話などで保護者へ知らせる。必要に応じて家庭訪問する。</li> <li>学級、学年通信で学習活動内容や活動後の児童の感想などを発信する。</li> </ul>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動など6年生が中心となって活動する場面で、「バックキャスティング」させ、主体的で責任感をもって取り組んでいるのか全職員で評価し、共有していく。</li> <li>校内に「人権の木」を掲示し、学校生活の中での「よさ」を見つけ「人権の実」に記入し、貼り付けるとともに、人権だより「心ぼかぽか」に児童らの書いた「人権の実」を紹介し、他学級や他学年とのつながりを視覚的に捉えさせる。必要に応じて各学級でフィードバックさせる。</li> </ul>	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>ノート</li> <li>ワークシート</li> <li>行動観察</li> </ul>	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちのクラスをより良くしたいという思いを誰もが持っているということが分かったことで関係性の向上が見られた。</li> <li>クラスの課題を出し合う中で、互いに共通点が見つかり、安心感を味わうことができた。</li> <li>クラスの姿をバックキャスティングする話合いの中では、互いを思いやる気持ちの大切さについて確かめ合うことができた。</li> <li>単元を通して主体的に意見を伝え合うことができ、日常の場面にもつなげている児童をふやすことができた。</li> </ul>	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>理想のクラス像に近づけたい気持ちと日常の具体的な言動が結びつかない児童がいる。</li> <li>学習と日常をつなぐ人権教育の充実は一朝一夕にはいかず、児童たちの人間関係づくりは学年始めから日々続けているがその成果を感じ取るためにも、もっと早い段階で本教材に出会わせるべきであった。</li> </ul>	

## 第6学年 総合的な学習 学習指導略案

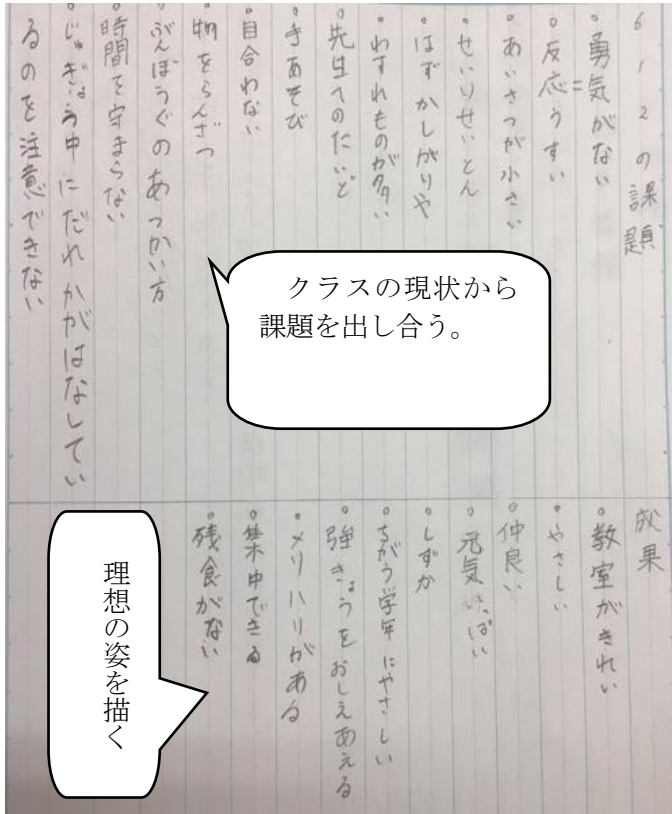
- 1 主題 クラスの幸福論
- 2 資料名 町の幸福論(国語科「6年東書」)
- 3 ねらい 目的に応じて、話の構成を工夫し、場に応じて適切な話し方で伝えることができる。
- 4 人権教育の内容 人間関係の活性化 3-(2)-ア

### 5 展開

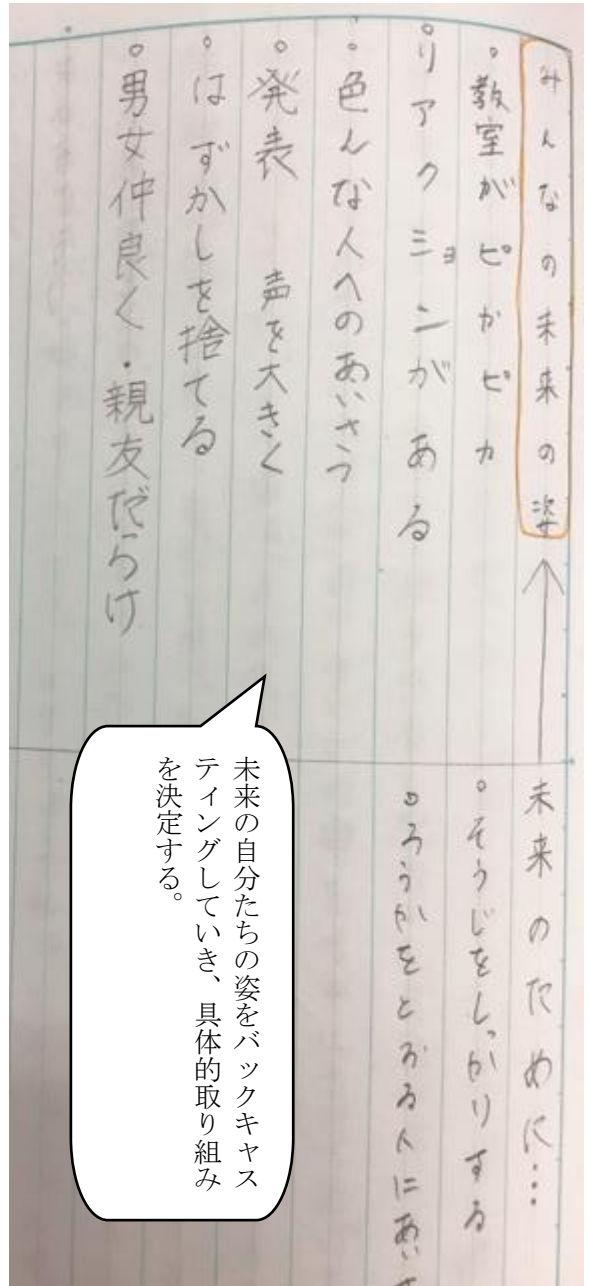
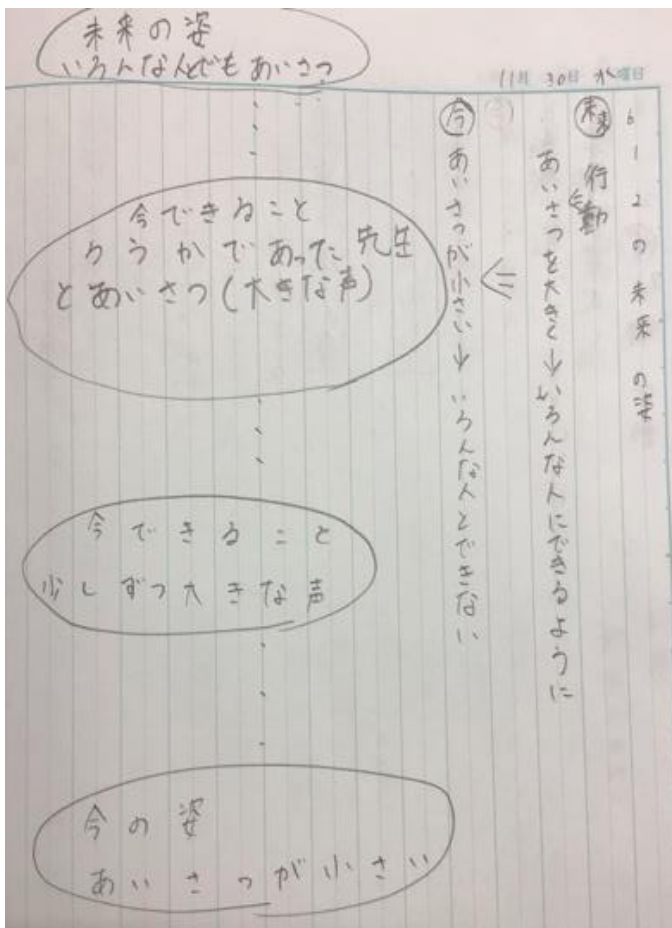
学習活動	主な発問(○)と児童の反応(・)	指導上の留意点
1、バックキャストの仕方について理解する。 ① 現状の課題を把握すること ② 理想とする未来の姿を想像すること ③ 具体的に取り組む内容を持つこと	○ 「町の幸福論」を考える際、最も重要なのはどんなことでしょうか。 ・ 「豊かな未来の姿を想像することだ。」ということに気付く。 ・ バックキャストすること	○ 国語科「町の幸福論」の学習を振り返り、筆者の主張を読み取る。 ○ 豊かな未来の姿を想像し、バックキャストする楽しさを読み取り、最も主体的に取り組めるものこそ「クラス」であることに気付かせる。
6-2 クラスの幸福論を考えよう		
2、現状のクラスの課題について考え合おう。	○ 6-2の困り感はどこにあるのでしょうか。 ・ 思っていることが言えない。 ・ あいさつができていない ・ 人のことを思いやれない	○ 自分たちのクラスを客観的(他人事)に分析することで課題の核心を浮かび上がらせる。 ○ 課題をノートに記入させ、「ギャラリーウォーク」や「発表」を提案し、互いの思いに気付き合わせる。
3、豊かな未来のクラスの姿を考え合おう。	○ 6-2がこんなクラスになればいいなと思う姿を想像しよう。 ・ あいさつし合える ・ 掃除をきちんとする ・ 何でも話せる ・ いじめをしない ・ みんなが発表できる	○ ここでも客観性を大切に、漠然と考えさせる。 ○ それぞれが考える理想の人間関係について交流する。 ○ 交流しながら、「どうすれば理想に近づけるのか？」などのことばをかけ、それぞれの主体性に働きかける。
4、具体的に取り組む内容を考え合おう。	○ 卒業に向けて、今日から取り組んでいくことを決定しよう。	○ みんなで「一つのこと」をめざし、行動し、達成することができるようにする。 ○ 「マイナスをプラスに」「ピンチをチャンスに」を合言葉に卒業へ向かわせる。

[別紙⑥]

○児童のノートより



○「あいさつ」についてのバックキャストイングをする。(全ての課題につなげる)



本学習を終えた児童たちは日々をより良くするために「バックキャストイング」しながら、歩もうとするようになった。  
 教室での授業では、「反応が薄い」ということが共通課題としてとらえ、「リアクションしていこう」というめあてをもつことができた。  
 日々の終わりの会で振り返り、朝の会で目標をもつことを繰り返しながら、未来の姿に近づこうと着実に歩んでいる。